

2021年
(令和3年)
6月8日
(第三種郵便物認可)
昭和23年4月15日
毎月3回発行
(第1、第2、第3火曜日)

今号の特集
▷カレー特集 ④～⑤面
▷中元贈答品特集 ⑥～⑧面
▷食用ごま・胡麻油特集 ⑩面

中部飲食料新聞社ホームページ
<http://chuin.net/>【業界情報発信中】



第3409号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5-18-9
電話(052)571-7116代表
FAX(052)571-7118

東京支局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話(03)5614-7531
FAX(03)5614-7532

中部 大正から 食を伝えて100有余年

飲食料新聞

21年3月期決算

主要卸3社販売動向

コロナ禍の世相を色濃く反映

主要卸の21年3月期決算業績が相次いで発表された。昨年4月から今年3月というまさに「コロナ禍の真ん中」ということもあり、各社の業績を比較すると共通点が見られ、コロナ禍での食品流通業界の赤裸々な動きが垣間見える。

まず共通しているのが、業態別売上におけるCVS部門の苦戦とスーパー部門の伸長である。五十音で見ると伊藤忠食品のCVS・ミニスーパーの売上前年比は0.7%減、日本アクセスのCVS部門は9.6%減、三菱食品のCVS部門は9%減といずれも減少。売上構

成比が高い卸(日本アクセス28%、三菱食品30%)なお伊藤忠食品は10%ほど減少率が大きく、各社の全体売上に大きく影響している。CVS部門の減少理由に「リモートワークや外出自粛によるオフィス街・観光地の売上減少(三菱食品)などが挙げられている。

一方、スーパー(SM)部門の売上前年比は伊藤忠食品が4.3%増、日本アクセスのリジョナルチェーンが7.4%増(ナショナルチェーングループは9.8%増)、三菱食品が1.8%増と濃淡があるがいずれも前年増。またドラッグストア部門の売上高の大幅伸長も共通している。

日本アクセスは売上構成比が6.6%で前年比は11.8%増と2ケタ伸長、三菱食品は構成比6.2%で前年比3.3%増とともに前年を超えた。

次に「部門別(商品分類別)での共通点は「酒類部門」の減少である。伊藤忠食品は和洋酒が前年比3.2%増も最大カテゴリのビールは10.2%減。三菱食品は1.5%減で、ともに業務用チャネルの売上減が全体売上に影響。対照的なのが「冷凍・チルド部門」で伊藤忠食品の冷凍チルド部門は3.1%増、日本アクセスのチルド分野は2.6%増と前年クリアも、三菱食品の低温食品は特に外出自粛等による外食(外食店向け業務用食材)やCVS業



米女会長 米女太一 氏は、21年度定時総会を都内で5月27日に開催した。定時総会の冒頭、米女太一会長は次の通り挨拶を述べた。

21年度定時総会開催 諸課題に対応

全国清涼飲料連合会は、「21年度定時総会」を都内で5月27日に開催した。定時総会の冒頭、米女太一会長は次の通り挨拶を述べた。

清涼飲料水は命をつなぐための必需品として安定供給が求められ、会員各社は社員をはじめ関係する方々の安全を確保しつつ、安定供給に協力を

7月にはオリンピックが開催されるが、開催は「中止」と「再延期」という調査結果が合計62%ある——と調査しているのは日本経済新聞(5月31日)である。そして今夏の消費経済に重大な影響を与えているのがオリンピック開催の有無である。準備があるから決定は急いで欲しいものだ。

コロナの感染予防対策の強化もオリンピックの中止も商業活動を狭める。こんなに難しい商売環境の夏は「まさに百年に一度」?といった異常事態である。この苦しい夏の商売を如何に乗り切るか、頑張りたい。

(大橋隆士)

自然のおいしさ!!
ゴジマ ジヤム
小島食品製造株式会社
本社 東海市名和町一番割中25
電話 (052)603-3511

5月24日付でMizkan Holdingsの代表取締役社長に中笠裕子氏(前専務取締役)が就任、取締役副社長に中笠聖子氏(前専務取締役)が就任した。中笠裕子氏、中笠聖子氏はともにミツカングループの副CEO



ミツカングループ新役員体制
ホールディングス社長に中笠裕子氏

も務め、中笠聖子氏はMizkan Assetの代表取締役社長に就任。Mizkan Holdingsの取締役副社長にはミツカングループのCEOを務める結城幸一専務取締役、同社専務取締役に小島淳常務取締役が新たに就任した。会見の席上、ミツカングループCEOでMizkan Holdingsの代表取締役会長の中笠和英氏は「中期経営計画も3年目を迎え、19年以降10年後のありたい姿として策定した『未来ビジョン宣言』の実現に向けた取組みは方向性がおおよそ整理することができた。今後は新しい役員

体制で、自分たちのものとして、より具体化させていく段階となり新体制移行を決めた」と説明。「昨年、継承を本格的に考え始め、継承するメンバーが、私がミツカングループの実質的な経営を担った時とほぼ同じ年代となり、彼ら彼女らがこの数年成長してきたことなど、経営や執行を引き継ぐ環境が整ってきたことも主な理由。42歳から51歳の若い取締役メンバーでミツカングループのさらなる成長に取組んでもらう」と述べた。

事業面は中笠裕子氏が継承。経営と執行の橋渡し役となりグループの成長戦略、計画立案、経営管理を担う。グループCEOの中笠和英氏が示すコーポレートガバナンス

の在り方に沿い、構築や執行を進める。将来的にはミツカングループのオーナーは中笠聖子氏に引き継いで、聖子氏はオナー家の資本・財務戦略に基づいた次の時代のグループ全体の事業戦略、これを支える資本・資産・資金の在り方を担う。中笠和英氏はMizkan Holdingsの代表取締役、グループCEOの立場に専念。企業統治の根幹に関わる事に対する責任、経営資源配分の最終責任を担い、経営メンバーによる企業理念を浸透する取組みは同氏を中心に進める。

中笠裕子氏は1976年生まれ。愛知県出身。成蹊大学法学部卒業。99年にミツカングループに入社。会見では「改めて身を引き締まる思い。ミツカンは樽詰の酢を瓶詰にして売り出したり、海外に積極的に進出し今や海外売上比50%を超える、納豆事業に参入し事業を拡大するなど果敢に新たなチャレンジを行う企業。ミツカンらしさを継承しつつ、高品質で生活者が真に求める商品・サービスの提供でさらなる支持を獲得したい」と説明。「まずは基盤整備を行い、デジタル化や顧客との双方向コミュニケーションなど顧客との対話や顧客の潜在的、潜在的なニーズの把握に取り組みたい」と述べた。

中笠聖子氏は1979年生まれ。愛知県出身。甲南大学経済学部卒業。01年にミツカングループに入社した。

三井食品
本社を7月に移転
グループシナジー発揮

7月26日に三井物産100%出資の三井物産流通ホールディングスが設立され、同社はその傘下のもとしてグループ各社と連携して顧客に提供する価値の最大化に努めてきた。今

百年に一度の夏?
6月は「中元商戦」の本格化で、いよいよ夏場の商戦は本番である。

商業活動は大型の商業施設や飲食店の営業時間の短縮などコロナ対策の強化のなかで繰り広げられている。これに備える消費者には外出の自粛や密に要請されない買物などが要請されている。

7月にはオリンピックが開催されるが、開催は「中止」と「再延期」という調査結果が合計62%ある——と調査しているのは日本経済新聞(5月31日)である。そして今夏の消費経済に重大な影響を与えているのがオリンピック開催の有無である。準備があるから決定は急いで欲しいものだ。

コロナの感染予防対策の強化もオリンピックの中止も商業活動を狭める。こんなに難しい商売環境の夏は「まさに百年に一度」?といった異常事態である。この苦しい夏の商売を如何に乗り切るか、頑張りたい。

(大橋隆士)

回、グループシナジーのさらなる発揮を目的に本社事務所をグループ各社とともに日比谷フットタワーに移転、各事業会社が一ヶ所に集まることで経営効率の向上と円滑な事業展開を図り、全社一丸となって顧客に提供する価値の向上を図る。

(移転先) 東京都港区西新橋1丁目1番1号 日比谷フットタワー22階(総合受付)、23階

株式会社 真誠(しんせい) 〒481-8526 愛知県北名古屋市片場新町29 | TEL(0568)23-3311 FAX(0568)22-4245

からだにうれしい、ごまかけ習慣

ShinSei

すべての人を笑顔にしたい

株式会社 真誠(しんせい) 〒481-8526 愛知県北名古屋市片場新町29 | TEL(0568)23-3311 FAX(0568)22-4245

北海道・東北営業部/関東営業部/中部営業部/近畿営業部/中四国営業部/九州営業部/関ヶ原工場/名古屋工場/胡麻の郷